

【浄化槽 改善事例】 攪拌不良について

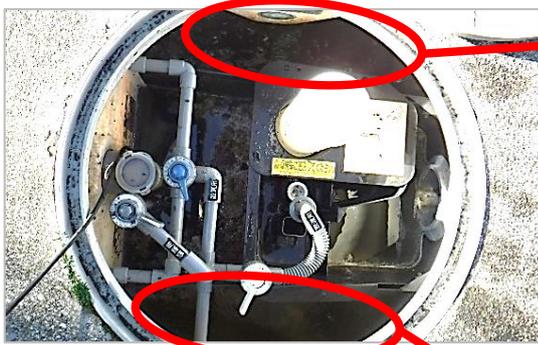
浄化槽は、汚水を一次処理(固液分離及び嫌気性分解)した後、空気を送り二次処理(好気性分解)を行い、消毒後に放流しています。

送風機の経年劣化等により送風量が低下した場合や、散気管が生物膜等で目詰まりした場合、槽内へ十分に空気が送られない攪拌不良状態となります。

攪拌不良状態では、二次処理(好気性処理)が十分に行われなことから、放流水質の悪化だけでなく、悪臭等の原因となることがあります。

攪拌不良が発生した場合は、保守点検業者と相談のうえ、送風量の確認や散気管の目詰まり改善などの対応が必要となります。

二次処理部の攪拌不良発生状況



正常時

拡大

溶存酸素量(mg/L)	
望ましい範囲	測定結果
1.0mg/L以上	2.9mg/L

攪拌不良発生時

拡大

溶存酸素量(mg/L)	
望ましい範囲	測定結果
1.0mg/L以上	0.2mg/L